

# 奄美地域における実エンドウの強風被害後の対策技術

台風通過後、ただちに播き直すことで、商品収量は10月下旬播種の7~9割を確保

## 背景・目的

- ・奄美地域は台風被害のリスクが高く、生産が不安定
- ・台風被害後に栽培を継続するために有効な対策技術の確立が必要
- ・栽培継続の可否を判断するためには、対策時期別の収量の目安が必要

## 成果の内容

### ○播き直しが被害株の継続利用より多収

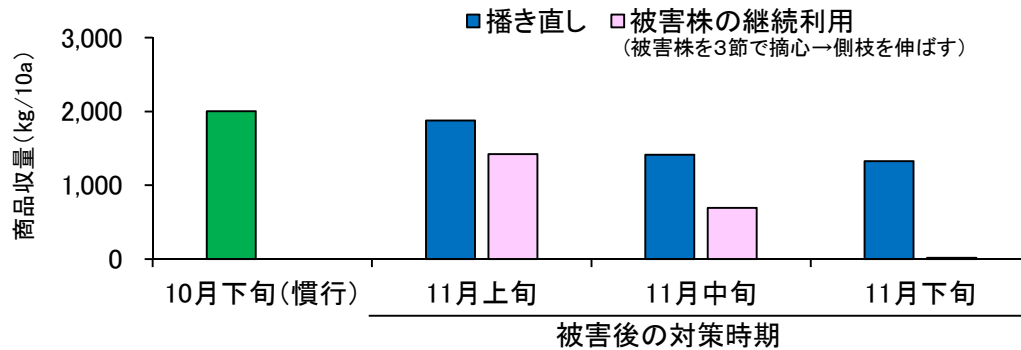


図1 播き直しと被害株の継続利用が商品収量に及ぼす影響

### ○播き直すことにより11月上旬で9割、11月中旬で8割、11月下旬で7割の商品収量を確保

表2 播き直す時期が商品収量に及ぼす影響

播種期	商品収量(kg/a)			慣行比(%)			
	H30	R元	R2	H30	R元	R2	平均
10月下旬 (慣行)	210	253	200	100	100	100	100
11月上旬	178	238	188	85	94	94	91
11月中旬	153	226	141	73	89	70	77
11月下旬	136	183	133	65	72	66	68

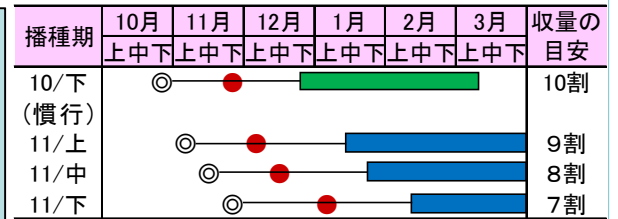
## 期待される効果

- 台風被害を受けても収益を確保
- 栽培継続の判断が可能

強風被害後



播き直し後



注)◎:播種, ●:開花期, ■:収穫期

- 普及対象・範囲  
奄美地域の実エンドウ生産者

鹿児島県農業開発総合センター  
徳之島支場園芸土壌研究室